

打者走者の防具の取り外しについて

はじめに

打者が自打球・死球等の怪我から身を守るために腕足等に防具を取り付けています。四死球時、一塁に達する前に防具の取り外しが行われ、取りに来た選手に渡している。一塁に達する前は「タイム」をかけてはいけないと言う原則からどのように対応すればよいのか決まっていないので、各所バラバラの対応になっています。

今リーグでの対応として、引き続きプレイが行われないとき「タイム」を掛けてその場での取外しを行い、一塁に達したあとプレイの再開を行っています。

今後は下記のとおり実施したいと思いますので、各所での指導をお願いします。

記

【打者が四球を得て、一塁に達する前の防具の取り外しについて】

I. 四球

1. プレイが行われていないか、確認し「タイム」を宣告する。
2. 打者走者は、その場で防具を取り外す。
3. 自チームの選手に防具を渡す。
4. 打者走者が、一塁に達するのを確認したら「プレイ」を宣告する。

II. 安打のあと塁上で防具の取り外しに

1. 打者走者が塁上に立ったとき。
2. プレイが一段落していることを、確認し「タイム」を宣告する。
3. 打者走者は、その場で防具を取り外す。
4. 自チームの選手が取りに行く。タイムを掛ける前にはフェア地域には入れない。
5. 取りに行った選手が、フェア地域を離れたのを確認して「プレイ」を掛ける。

以上

基本動作の確認(競技者必携)

1. 球審の構えについて

はじめに

球審が構えているときに投球、ファールチップが手、腕に当たり骨折するなどの怪我が発生している。これらから身を守るために腕の組み方について、下記の構えについても、認める。

記

1. 球審の構え

- (3) 両肘を軽く締め、左手を前にして両手を組む。

追加

- (3)-2 投球に合わせ構える時に、両手を両足のふとももの後ろに添えて構える。

【目的】

投球、ファールチップが当たった場合、腕が球にさかわらず自然に後方へ押され、力を分散し負傷を抑える。

以上